

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773200613		
法人名	社会福祉法人ふたば福祉会		
事業所名	グループホームせんだんの家		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町江栗馬場9-1		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成31年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事が毎月あり、準備の段階から利用者に参加していただいている。当日は、ボランティアの起用力を頂いたり、年に2~3回は行政の方やご家族を招待し、事業所の中だけでなく外部とのつながりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義と役割を理解し、近隣の会社や商店に声かけしたり、ボランティアや体験学習を受け入れ、利用者と交流して事業所を知って貰えるようにしている。管理者は、今までの理念を見直したいと考え、新しい職員の意見や提案を取り入れ、話し合いケアの向上に取り組もうとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・目に付く所に掲示し、理念に添って実践するよう努めている。	職員は理念を理解し、利用者に寄り添い笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。利用者の表情や行動に直ぐに気付き、落ち着かなかったり、不安がるときには声かけしたり話しかけるなど、安心して過ごせるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の清掃活動に参加している。 ・行事にはボランティアの方を受け入れている。	事業所から区長に地域の行事を聞いて参加するようにしている。隣接されている特別養護老人ホームに訪れたボランティアと交流して楽しい時間を過ごしている。小・中学生の体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ボランティアの方などの協力を積極的に受け入れている。 ・施設側が外へ出て行くことも実施していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ご家族・地域・役場や社協の方々の質問や意見を聞くことができ、サービスの向上に活かしている。	事業所の状況や行事の報告をしている。訪問者の受け入れについて意見があり、事業所の考えを伝えて理解して貰っている。通所サービスについて質問があり、環境面を整備して対処したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に合わせ広報を作成し、見ていただきながら入所状況の報告やケアサービスの取り組みを伝えている。 ・行事などに参加して頂いた時など、事業所の実情を見ていただき、協力関係を築けるよう努めている。	事業所の現況について、役場に出向いて話しをしている。認知症カフェ開催について連絡を貰っている。新年会に町の担当者などに参加して貰い、親睦を兼ね連携できるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・拘束をしないことを実践しているが、玄関は自動ドアで外へ出るときは解除が必要である。居室や廊下から外へは自由に出られるようになっている。 ・身体拘束の対象となる行為について、委員会での話し合いや研修参加で全員が周知している。	身体拘束はしないことを基本にしている。ことばの拘束については、職員間で話し合い、ことばづかいに気をつけながら、ケアに取り組んでいる。研修会に参加し、内容を内部研修し共有しながら、拘束しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加しミーティングの際に報告し、職員間で定期的に話し合い注意し、周知することが大切だと考えている。 ・ケア向上委員会の中で身体拘束・虐待の対象となる行為について話し合う機会を設け虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、活用には至ってないが外部研修にて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・重要項目などを説明し、納得して頂いてから契約としている。改定時は、その都度説明し理解していただいている。また事前にホームの見学も頂き、不安や疑問点については丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者様に意見や要望を伺って希望に沿うようにしている。ご家族様には面会時に伺ったり、玄関に意見箱を設置しており、意見が出た際は反映させている。	利用者を歩かせて欲しいとの要望があり、身体状況などを説明し、無理のない取り組みを理解して貰っている。家族が来訪したときは、どんなことでもいいから、意見や要望を出して欲しいと伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング等で職員の意見、要望等を聞き出来ることや良いことは受け入れ、職員の働く意欲の向上や質の確保に努めている。	利用者の足がむくまないよう、職員の提案で手作りの足置きを活用している。行事について活発な意見や提案が出ている。資格取得や研修参加の要望があれば、勤務体制を考慮して質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入。面談等を行い、正しい評価と人事考課が活かされる仕組みの構築に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア向上委員会で内部研修の年間計画を作成し、参加できる機会を作るよう努めている。マニュアルの育成シートやトレーナー評価項目をチェックしOJTでトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や県社協が開催する研修等に参加し、他事業所と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族様の要望等によく耳を傾けたりコミュニケーションをとり、利用者様に合った対応が出来るように心がけている。 ・職員間でも話し合いながらご本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の思いに共感し、事前に話し合い要望等を聞き、連絡を取り合いながら不安を解消できるよう心がけ、信頼関係作りに強めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の心身の状態やご家族の想いに耳を傾け、必要なサービスを職員間で話し合っている。 ・自分で出来る事を行って頂けるよう、自立支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・洗濯物たたみ、お膳拭き、食器の片付け等、共に作業したりお茶を飲みながら話をしたり、絆を深める職場作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時や請求書送付の際に広報や便りを入れて、生活状況や受診結果を報告している。遠方の受診や状態によってはご家族へお願いしている。 ・行事の際に無理のない範囲で参加を呼びかけ、共に本人を支えている関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの美容師さんに散髪して頂いたりボランティアで行事に参加して頂いている。 ・退職した職員に行事に参加して頂き、馴染みの人との関係を継続している。	家族・孫・友人が訪問してくれている。隣接している特別養護老人ホームの知人に会いたいときは、職員と出かけ楽しい時間を過ごし、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりの性格や相性を理解し、席順の工夫や支援に努めている。 ・重度の難聴や耳が遠い方が多いので職員が間に入り関わりが持てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も相談や来所を気軽に頂けるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日頃からの見守りで利用者様の様子を職員が把握して共有している。 ・気分の落ち込みが見られたら寄り添いながら話を聴いたり状況に応じて対応し、一人ひとりの想いに沿った暮らしが出来るよう取り組んでいる。	思いを伝えられない人には、表情や行動から思いをくみ取るようにしている。その人の生い立ちなどの履歴を把握し、思いの意向を職員間で共有し、ケアに活かしている。孤独を感じる人には、話しかけ寄り添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・実態調査やご家族様、利用者様から情報を得て、本人らしい生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々コミュニケーションをとり生活状態を観察している。サービス担当者会議で情報の交換をしながら、利用者様が自分らしい生活が出来るよう、状態の把握や対応の仕方について話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当職員がモニタリング、ケアプランの作成を毎月担当者会議で、検討した内容に応じたプランの見直しをしている。ご家族へもプランの変更時には説明している。	本人・家族の意見や要望を聞き、医師の意見を貰い、担当職員と話し合い、個別にそのひとにあった介護計画を作成している。状況に応じて、その都度申し送りで伝え、その人らしく暮らせるよう見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・支援内容を確認しながら、日々の様子やケアについて記録したり、申し送りで職員が確認できるように努め、それを基に実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様の状況を職員間で共有し、ご家族に相談しながら、その都度柔軟な対応が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの受け入れを行っている。 ・双葉幼稚園、小学生の訪問、中学生の職場体験、婦人会大正琴、ルルドアンサンブルコンサート等、定期的に行って頂き交流の場を持っている。 ・ご家族のダンスや踊り等も披露して頂いている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力病院での定期受診。必要ときにはご家族へ連絡し、他病院へ受診、同行して頂いている。 ・状態の変化が見られたときには、ご家族へ連絡、報告している。 ・利用者の体調に応じて受診し相談できる体制が出来ている。 	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。希望があれば、協力医療機関に変更することもできるようにしている。受診は家族同行が基本になっているが、職員が代行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・特養の看護師に相談助言をして頂いている。緊急時には「特養の看護師に協力が得られるようになっている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時は、ご家族との連絡を密にしたり面会に行き情報交換を行っている。 ・入院時情報連携シートを持って域情報の共有に努めている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時にご家族の意向を聞いているが、時期を見て再度意向を尋ね、職員間で話し合っている。本人とも話し合う機会を持てるようにしたい。 ・重度化や終末期に関してご家族から要望を聞いているが、看取りは行ってないため、事業所として出来る事を伝えている。 	利用者の身体状況に応じて、その都度家族と話し合い、重度化した場合は、家族の判断を貰うようにしている。重度化や終末期の対応について研修会に参加し、知識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを確認し、それに沿って対応している。 ・事故防止委員会を通して内部研修を行ったり、ミーティングで話し合い実践できるよう努めている。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な避難訓練を実施している。 ・毎月、防災委員会の活動報告と災害時の避難経路等の話し合いを行い情報の共有をしている。 ・地域や他施設との協力体制をとっている。 	消防署の協力を経て、隣接している特別養護老人ホームと一緒に避難訓練を行っている。大きな声で誘導するようにとのアドバイスを貰っている。事業所独自の避難訓練を行いたいと考えている。	地域の方に参加して貰えるよう、避難訓練の日を伝え、協力を呼び掛けることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・否定することなく、一人一人にあった声掛けや対応を心がけている。 ・言葉使いに気をつけ、誇りやプライバシーを大切にしながら対応している。 	レクリエーションの参加は、本人の意思を尊重し、無理強いしないようにしている。やりたいことをして貰うようにしている。トイレ介助は、気づかれないようさりげない声かけし、羞恥心に配慮し誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の思いや希望に沿って、どうしたいのか、どうするのか、出来る限り自分で選べるような支援をしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・無理強いすることなく、その日その時の気分や体調を考慮し、本人のペースに合わせて過して頂いている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族からプレゼントされた衣類や本人が気に入っている物、季節に合わせたものを着用して頂いている。 定期的な散髪を行っている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の献立を表示している。 ・惣菜等の購入希望があれば買物に行った際に購入している。 ・行事のときは、一緒に食事を楽しむことが出来ている。 	その人のかむ力など身体能力に合った食事ができるようにしている。お寿司やラーメンなどいろいろな店に外食に行き、食欲が高まり、楽しく食事をしている。できる方には、食後の片付けをして貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、毎食の食事量と水分摂取量を記録し、少ないようであれば声掛けしたり好きな飲み物を用意し摂取して頂いている。又、個々に合った食事形態にしている。 ・好きな惣菜を買って食べている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けや介助にて毎食後に口腔ケアや義歯の洗浄を実施している。 ・本人に合わせて歯ブラシや洗口液、口腔ケアスポンジを使用している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄パターンから時間や訴えに応じた誘導、介助を行っている。 トイレに行った際は手摺を利用し、なるべく自分で立てるよう援助し機能の維持に努めている。 	<p>できるだけトイレで排泄できるよう取り組んでいる。職員が、その人の持っている能力に気付き、根気よく励ましたり労ったりし、自分でトイレ排泄ができるようになった方がいる。失敗したときは、さりげなく対応している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 水分量をチェックし水分を摂るよう声掛けを行っている。 排泄状況を確認し、医師と相談しながら便秘薬を使用している。 毎朝、牛乳にラクチュロースシロップ(オリゴ糖)を使用している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 感染症や体調を考慮し、職員側から決めることはあるが、本人の要望を聞いている。 その時の気分や体調、入浴状況に合わせて入浴の声掛けを行っている。 	<p>利用者が負担にならないで入浴できるよう、機械浴槽が設置されている。無理強いはいしないで、清潔や衛生面を考えて、入って貰えるよう声かけしている。ゆず湯にして、季節を感じてもらえるようにしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望に沿って休みたいときに休んで頂いている。 居室の室温管理を行い気持ちよく眠れるよう支援している。 休まれる前にトイレの声掛けやパットの確認を行っている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 名前や朝・昼・夕の確認を行い誤薬のないよう対応している。 薬の変更時には、連絡ノート等で全職員が周知出来るようにしている。 利用者の処方箋をいつでも確認できる場所に置いている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> おしぼり畳やお膳を拭く作業等、出来る方には役割としてやって頂きお礼を言うようにしている。 畑の様子を見たり、収穫したりプランターの花を見ることを楽しみにしている方も居る。 特養ホールで手芸クラブに参加し、手作りを楽しんで頂いている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の方が外出に連れて行けるときは、お願いしている。 天気の良い日は敷地内やテラスへの散歩に誘っている。 	<p>行事で出かけるときは、ボランティアの方が協力してくれ、利用者一人に一人の方が付き添ってくれ、安心・安全に出かけることができています。新しく行くところは担当職員が出かけ、下見をしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お小遣いはホームで預かり管理している。本人の希望があれば買物等、職員が支援している。買物は、本人と出掛けることが望ましいが、希望しないことが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人から電話や手紙の要望は少ないが、ご家族から電話が来たときに話して頂いたり、手紙やハガキを書かれたときは職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室やフロアの温度や湿度管理に気配りしている。 ・定期的にトイレに清掃を行い清潔に保っている。 ・毎日の清掃で感染予防や気分よく生活が出来るよう配慮している。 ・季節に合わせた装飾をしている。	行事の写真・書き初めや、利用者の季節感のある作品が飾られている。加湿器に薬剤を入れ感染症対策をしている。利用者の相性を考え、席替えをし居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・お互いが過ごしやすいように、必要に応じて席替えをしている。 ・廊下にソファやベンチを置きゆったりしたり、利用者同士で話が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	・居室にご家族の写真を貼ったり、行事などの写真を貼ったりしている。 ・手芸クラブで作成した作品を飾っている。	馴染みのものを自由に持ち込んで貰い、その人らしく暮らせるようにしている。身体変化などに合わせ、ベッドの位置を変えている。衣替えや掃除は、職員が主に行い、整理整頓し清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下やトイレ、浴室には手摺を設置し、安定した歩行が出来るようにしている。 ・ベッドには介助バーを設置し、安全に立ち上がれるよう配慮している。 ・テーブル席や居室が自身の場所だと分かるようにしている。		

kisetuniawas